

経済
月報

MONTHLY REPORT 2022

特集

瀬戸を代表する陶芸家

背戸窯二十二代目 **加藤 令吉** 氏

新総代に聞く

医療法人小森内科クリニック

理事長 **小森 保生** 氏

ビジネスインタビュー

データサイエンス活用 of 第1 人者

一橋大学教授 **清水 千弘** 氏

November

11

No.636

碧煌彩壺「宙一遙かなる」
加藤令吉 作

トップオピニオン

- 01 | 一般社団法人定年後研究所 所長 池口 武志 氏
「豊かな経験と主体的な学びがシニアの強み」

特集

- 02 | 瀬戸を代表する陶芸家
背戸窯二十二代目 加藤 令吉 氏

新総代に聞く

- 12 | 医療法人小森内科クリニック
理事長 小森 保生 氏

ビジネスインタビュー

- 18 | データサイエンス活用の第1人者
一橋大学教授 清水 千弘氏

トピックス

- 26 | 歴史的な高水準にある企業物価

最近の経済動向

- 28 | 愛知県の主要経済指標

top opinion

トップオピニオン

豊かな経験と主体的な学びがシニアの強み

昨年4月に「70歳までの就業機会確保」を全ての企業に求める法律（努力義務）が施行され、前人未踏の「70歳就業時代」「生涯現役時代」が現実味を増してきた。

これまで会社員にとっては「定年」が人生の大きな転機であり、悠々自適の余生の過ごし方が関心事であった。しかるに生涯現役時代では、定年（今でも多くの企業は60歳）は単なる「通過点」に過ぎず、60歳以降も会社などの組織で長く仕事を続けるのが既にスタンダードになりつつある。

但し、単なる通過点ではなく、

自らの生き方と向き合う貴重な機会であるようだ。大企業でも終身雇用制が氷解を始めており、60歳以降の働き方の多様化（副業など）を促す「キャリア研修」や「リスキリング研修」なるものを導入する動きが目立ってきた。企業ばかりではなく、大学も「社会人の学び直し講座」を始めたり、自治体も50代現役世代の住民向けに「セカンドキャリア塾」を始めたり、産官学こぞって中高年人材の活性化に躍起になってきたのは大変望ましいことだと思う。

では、70歳を超えても組織で重

宝がられる人材とはどんな人だろうか。

中高年人材を専門にする転職支援会社に行わせると、過去の栄光を引きずり、昔の自慢話に花を咲かせる人はNGだそう。一方で、幾つになっても謙虚な姿勢で、後進の成長を陰で支えようとする人材は大歓迎とのこと。このような人材には、自然と人が集まり、人と人をつなぐ役回りが増えてくる。筆者はそのような「人と人、組織と組織を繋ぐ人材」をリエゾンシニアと呼んでいる。

お会いしたりエゾンシニアは、



池口 武志（いけぐち たけし）

一般社団法人定年後研究所所長。キャリアコンサルタント。1963年京都市生まれ。1986年同志社大学経済学部卒業後、生命保険相互会社へ入社。以来、ジェネラリストとして様々な業務を担い、多様な職制の人材育成に係わる。2018年一般社団法人定年後研究所の設立時点から、中高年会社員の活性化に向けた調査活動に従事。2021年4月桜美林大学院老年学研究科（前期博士課程）に入学。現在、定年前後期のキャリアチェンジの促進要因・阻害要因を研究中。

自分だけの豊かな経験を持っているが、決して過去の成功体験に拘らず、新天地で求められる「新たな学び」を加えることで、幾つになっても成長を続ける人ばかりであった。筆者も、足元にも及ばないが、昨年4月から「老年学」を専門とする大学院で学び直しを始めた。曲りなりにも35年間会社員を続けてきた経験があるからこそ、教授が唱える理論に対して「疑問符？」が次々と沸き起こり、学ぶ楽しさを実感している。